

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ナウ

Network Now

2018 No.509

5/1

JART情報
<http://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒105-6131 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル31階
TEL. 03-5405-3612 FAX. 03-5405-3613

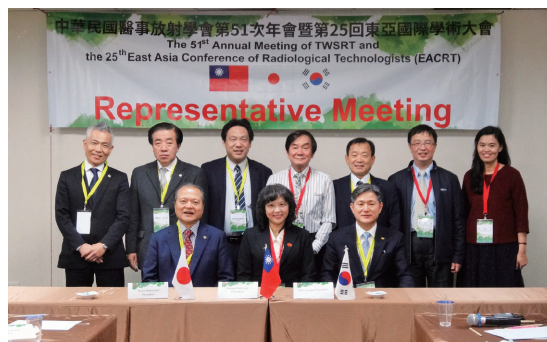


第51回中華民国医事放射学会学術大会 第25回東アジア学術交流大会 開催される

2018年3月10日(土)・11日(日)の2日間、The 51st Annual Meeting of the Taiwan Society of Radiological Technologists (TWSRT) and the 25th East Asia Conference of Radiological Technologists (EACRT) (第51回中華民国医事放射学会学術大会および第25回東アジア学術交流大会)が、嘉義市の長庚紀念醫院で開催された。アジア地域を中心に7カ国、約50人の外国人を含め、およそ1,200人が学術大会に参加した。日本からは中澤会長、佐野副会長、江田理事をはじめ16人が参加した。

今回のEACRTから「EACRTシンポジウム」が開催された。このEACRTシンポジウムは日本からの提案で実施されることになり、同一のテーマで日本・韓国・台湾の3カ国から、その国の代表がシンポジストとなり、今回のテーマはMRIであった。日本からは江田理事が「Duties and future tasks for MRI in Japan」というタイトルで発表した。またEACRTでは日本から5人の口述発表もあった。

日本・韓国・台湾の3カ国代表者会議では、アジアサポートファンドの使用予定について話し合わせ、本年度はインドネシアへの教育支援を実施することになり、8月にMRIワークショップを実施することで調整が進められる。また国際認定資格試験の作問および日程についても再度話し合われた。



EACRT代表者会議で

会議の最後には、TWSRTのKuo会長が今回の学術大会で会長職を退任されるため、退任のあいさつも行われた。

次回のEACRTは、2019年10月に韓国・ソウルで開催される予定である。英語で初めての発表を志す会員の方は、ぜひ挑戦していただきたい。多くの会員の参加を期待する。



3カ国の会長



開会式あいさつ



EACRT会議の様様



カラディナー



JART役員・会員参加者

第70回 診療放射線技師国家試験問題の分析結果

診療放射線技師国家試験問題評価委員会 委員長 佐野 幹夫

平成30年2月22日(木)に実施された、第70回診療放射線技師国家試験の出題内容および解答の考査を目的として、2月25日(日)に国家試験問題評価委員会を開催した。本委員会では、診療放射線技師法第17条で定める診療放射線技師として必要な知識および技能を評価する今回の国家試験の内容を検討した。評価および結果は、3月7日(水)に厚生労働省医政局医事課試験免許室に答申書として提出した。

・平成29年度 第70回診療放射線技師国家試験結果

受験者数：2,971人 合格者数：2,237人 合格率：75.3%

・過去の合格率との比較

年度	受験者数	合格者数	合格率
平成29年度 第70回	2,971人	2,237人	75.3%
平成28年度 第69回	2,939人	2,511人	85.4%
平成27年度 第68回	3,016人	2,377人	78.8%
平成26年度 第67回	2,839人	2,094人	73.8%
平成25年度 第66回	2,907人	2,224人	76.5%

第70回診療放射線技師国家試験問題の分析結果を答申書として取りまとめたので、一部内容を以下に掲載する。

提出された第70回診療放射線技師国家試験問題の答申書を一部掲載

1. 総評

診療放射線技師として必要な知識および技能を問う問題が適切に出題されていた。全体の印象として出題内容に偏りはなく、授業および臨床実習の成果を評価する良問が多かった。しかし、受験者にとっては前年度と比較してやや難易度が上がっていたようである。臨床現場からのニーズに即した出題傾向の変化に戸惑いがあったと考える。

またこれまで医療安全に関する設問が少ない感があったが、近年、臨床の現場で重要視されている患者確認方法や造影剤による副作用および患者への接遇に関する設問が、今回は確認された。そして被ばくに関する設問も多く散見され、精度管理において、単に数値を問うのではなく何を目的に行うかを問う設問もあり、より専門職種として求められる臨床に即した設問への変化を認める。一方で、画像に関しては解剖学や基礎医学の領域からの出題傾向が強く、日々の臨床現場で求められる疾患に関する拾い上げ所見への設問がほとんど見られないのは残念である。しかしながら、業務内容が拡大する中で領域ごとの設問数に、現状では極めて限りがあり

適切な考査とならないことを危惧するとともに、臨床の現場では医療安全の重要性が問われていることを勘案すれば、国家試験問題の設問数の増加は必須と考える。

そして残念なことに、複数解答と思われる問題が例年に比べ増加していた。試験委員長・副委員長を中心とした試験委員の丁寧かつ慎重な問題の作成と検討を、切にお願いしたいところである。

2. 具体的な内容(各領域)

(1) 画像に関する問題

本年度は画像解剖学に関する問題のみが出題されていた。将来、読影の補助を行う学生にとって、基礎的な画像解剖の知識が必須になることから、大学や養成所においては画像解剖の教育が強化されている。これらの現状を的確に勘案し、国家試験問題に反映していただいたことは高く評価できる。

(2) 疾患に関する問題

これまで基礎医学大要において、読影の補助に直接必要となる疾患に関する問題が出題されていた。しかし、本年度は画像検査や放射線治療を行う際に必要となる疾患を問う問題が少なかった。基礎医学大要は「構造と機能」「臨床医学の基礎」「社会医学」の3項目が出題基準となっていることから、問題内容に偏りがないう問題作成の段階から十分な検討をお願いしたい。

(3) CT装置の問題

例年、診療画像機器を中心とした領域で数問出題されていた。しかし、本年度は問題11(午前)の1問のみであった。大学および養成所ではCT装置に関する教育は十分に行われており、臨床現場で多用されていることから出題数の増加を求めたい。

(4) 感染症対策および医療安全

昨年度と同様に、感染症対策および医療安全を問う問題が出題されていた。これらは臨床現場で必要となることから、引き続き出題をお願いしたい。

なお、他職種の国家試験問題と同様に、具体的な手技を問う問題もご検討願いたい。

3. 具体的な内容(詳細)

(1) 以前より当委員会(日本診療放射線技師会)から要望している、日常業務に必要なQA・QC、医療安全などに関する出題も見受けられ、これから診療放射線技師として業務を担うための知識および技能を的確

に評価できる出題である。

- (2) 無散瞳眼底写真撮影に関する問題(午前22)で正解は設問5と予想されるが、設問1の「両眼を続けて撮影する」に対し、通常、両眼を続けての撮影は好ましくないとされている。しかし、臨床現場においては効率的な面や影響が少ないと判断され、連続して施行している医療施設が多い現状を認識されたい。
- (3) MR画像を問う問題(午前24)での膝関節MRIの冠状断像について、脛骨と共に腓骨を画角に入れないと左右を同定しづらい(今回、画角にRのマークが小さく描写されている)。今後は考慮していただきたい。
- (4) PETの画像処理を問う問題(午前30)は、一部の装置メーカー(島津製作所)ではX線CTで補正をせずに、線源を使用して補正している現状から適切な設問ではない。
- (5) 臨床の現場では用いられない用語が設問の中(午前19)で使用されていた。
- (6) マンモグラフィ精度管理に関する問題(午前72・午後14)で、マニュアルに記載されている装置の精度管理に関する設問は、臨床現場で必要とされる知識であり良問である。
- (7) 被ばく低減のための行為を問う問題(午後6)は、診療放射線技師の日々の業務における重要な任であり、適正な線量を順守し被ばく低減を業としており、この設問は非常に良問である。
- (8) がん検診の対象部位に関する問題(午後63)は、診療放射線技師が深く関わる業務として良問であるが、設問内容の難度を高めるようお願いしたい。
- (9) 胃部X線造影検査に関する問題(午後89)で、現在、胃部X線造影検査法は日本消化器がん検診学会の新・胃X線撮影法ガイドラインと、NPO法人日本消化器がん検診精度管理評価機構の基準撮影法がある。設問の中の半立位第二斜位の体位はその中の撮影法には入っておらず、以前の撮影体位である。出題には現行の標準的な手法での設問をお願いしたい。
- (10) 出題傾向は治療・乳房・MRI関連が多く散見され、従来のCT・超音波関連は減少し、医療ニーズの変化や業務拡大に伴い出題に変化が見られる。

4. 今後に向けての提案

医療を受ける国民にとって重要なことは、そのときどきで最良の医療が受けられることである。日進月歩の医療の中で、医療職に求められる知識・技術は増え続けている。一方、使われなくなる技術もあるが、知識としては当面必要である。国家試験に出される問題の傾向は、教育現場で即座に対策されるため、現在、医療で行われている医療職としての役割(救急医療・読影の補助など)を問うことで、安全な医療に反映することが可能である。また医の倫理・感染対策・多職種連携に必要な設問を検討していただきたい。さらに国家試験は

教育現場に直結され、いち早く求められる教育が享受されるため、時には医療社会のニーズを反映し、医療専門職種の資格に特化した被ばく評価・テロ対策など、施策に関連させた出題も考慮する必要があると感じる。

また厚生労働省の通知からも明らかなように、診療放射線技師の役割の中には「読影の補助」が義務付けられており、よりチーム医療が推進され患者への貢献も期待される。特に、検診領域や救急領域においては周知の事実であり、医師と他の医療職種間で行われようとしているタスク・シフティング/タスク・シェアリングを視野に入れ、診療放射線技師がチェックし、読影の補助として医師に報告するためにも、臨床的疾患の画像所見を問う設問や病気が疑われる場合に作成する補助的な画像(3D)を問う設問など、今後の出題に検討を加えていただきたい。

「幅広い効果的な試験を課すためには、問題数の増加を切に願いたい」

*上記の理由より、国家試験問題数の増加をお願いしたい。

提案：200問(現行) → 240問(改正後)

5. 解答が複数あると指摘した問題(複数解答として正式に採用された)

問題

- 午前22 無散瞳眼底写真撮影について正しいのはどれか。
 1. 両眼を続けて撮影する。
 2. 完全な暗室が必要である。
 3. 瞳孔径が2mm以上あれば撮影可能である。
 4. 撮影距離は眼底カメラを被験側から遠ざけながら決定する。
 5. アライメント調整とは眼球とカメラの光学系を一線化させることである。

理由：(解答1と5)

1. 近年の無散瞳眼底写真撮影装置は高感度検出器であるCCDカメラを使用している。ストロボ発光(白色光)を使用していた旧式の装置と異なり、光量を低くしても撮影できる。そのため現在では片眼を撮影した後、続けて反対側を撮影している。よって選択肢1は正答肢である。
5. アライメント調整は眼球とカメラの光学系を一線化させることであるので、選択肢5は正答肢である。

- 午前29 放射性医薬品で投与後にプラナー像を撮影する頻度が最も低いのはどれか。

1. ^{81m}Kr
2. $^{99m}\text{Tc-MAA}$
3. $^{123}\text{I-イオマゼニル}$
4. $^{123}\text{I-MIBG}$
5. $^{131}\text{I-アドステロール}$

理由：(解答1と3)

1. ^{81m}Kr を用いた検査では、放射性ガスを吸引しなが

ら撮像する。通常、放射性医薬品を投与した後にプランナー像を撮像することはない。よって正答肢である。

3. ^{123}I -イオマゼニルはSPECT検査用の放射性医薬品として使用される。1・3共に投与後にプランナー像を撮像することはない。よって選択肢1と3は正答肢である。

・午後4 オートラジオグラフィ法で正しいのはどれか。

1. イメージングプレート法は写真法よりも定量性が低い。
2. イメージングプレート法は写真法よりも高感度である。
3. α 線放出核種はマイクロオートラジオグラフィに適している。
4. イメージングプレート法は光刺激ルミネセンスを利用する。
5. イメージングプレート法は写真法よりもダイナミックレンジが狭い。

理由：(解答2と4)

2. イメージングプレート法は写真法より高感度である。選択肢2は正答肢である。
4. 平成20年2月に実施された第60回午後、問題63において同一の内容が出題されている。当時、厚生労働省から公表された解答は「4」である。出題から約10年が経過しているが、イメージングプレートの

測定原理は変わらないことから、選択肢4は正答肢として判断できる。

以上が提出された答申書の一部内容である。

本会としては、答申書に本年度国家試験問題の中で複数回答を指摘した6設問中3設問が正式に採点除外の問題として取り扱われ、関係各位のご理解に感謝を申し上げたい。

本年度も2,971人の受験者が診療放射線技師国家試験に挑み、2,237人の診療放射線技師が誕生した。医療の発展とともに技術の進歩や新たな分野が適切に国家試験問題に反映されており、医療現場で必要とされている知識や技術が加味された問題が出題されているかを分析評価することは、職能団体の使命であり、責任は重大であると委員一同が認識をして今後も取り組んでいきたい。

最後に、本年度、世の中に誕生した2,237人の診療放射線技師の皆さまの今後のご活躍を期待するとともに、診療放射線技師唯一の職能団体である日本診療放射線技師会への入会を切に望むものである。

診療放射線技師国家試験問題評価委員会(委員名)

○佐野 幹夫 井戸 靖司 丸山 智之 木暮 陽介 腰塚 慎二
加藤 京一 高嶋 優子 成田 浩人 岡部 圭吾 西澤 徹
丹羽 政美

以上11人

第1回 診療放射線技師学校養成所 カリキュラム等改善検討会 開催される

平成30年3月29日(木)、主婦会館プラザエフ(東京都千代田区)において診療放射線技師学校養成所カリキュラム等改善検討会の第1回会議が開催された。

本検討会は、昨年の3月に日本診療放射線技師会と全国診療放射線技師教育施設協議会が共同で取りまとめ、厚生労働省医政局長に提出した「診療放射線技師関連法令および臨床実習のあり方」を受け、厚生労働省医政局が実施するものである。診療放射線技師の学校養成所のカリキュラムなどについては、平成13年以降、大きな改正を行っていないが、国民の医療へのニーズの増大と多様化、チーム医療の推進による業務の拡大など、診療放射線技師を取り巻く環境も変化している。また診療放射線技師の質の向上を図るために、必要な単位数や臨床実習の在り方などの見直しが行われている。本検討会の目的は、このような状況を踏まえ、質の高い診療放射線技師を養成するため、診療放射線技師学校養成所の指定基準の見直しなど、診療放射線技師学校養成所のカリ

キュラムなどの検討を行うことである。

検討内容は「診療放射線技師学校養成所指定規則」および「診療放射線技師養成所指導ガイドライン」の見直しとして(1)総単位数の見直し(2)臨床実習の在り方(3)専任教員の要件について—である。構成員として各施設・機関から診療放射線技師および医師の代表(11人)が厚生労働省から任命され、本会からは熊代副会長が任命された。第1回となる検討会では、初めに構成員の紹介の後、座長が互選で選出された。続いて教育内容として追加提案された「画像診断・技術学」(仮称)の名称とその必要性および臨床実習の在り方、専任教員の要件について審議された。

今後は審議を重ねた後、平成30年秋に向けた最終報告書の取りまとめを目指し、平成31年度施行(平成33年度の入学から適用)の予定であることが示された。

(文責：副会長 熊代正行)

医療基礎コース「看護学」実習 開催報告

平成30年1月14日（日）、名古屋掖済会病院の講堂で医療基礎コース「看護学」実習が開催された。昨年度より、医療基礎コース「看護学」は座学の講習はe-ラーニングでの受講となり、実習のみを開催することとなった。愛知県では平成27年度より3年連続の開催となった。開催数日前からの北陸地方の記録的な大雪による影響で、残念ながら1人が参加できなくなったが、全国から29人の参加があり、午前9時からの実習に励んだ。

初めに公益社団法人愛知県診療放射線技師会 近藤裕二会長よりあいさつがあり、職能団体の重要性や各講習会への参加促進などについて話された。その後、講師の先生方の自己紹介を皮切りに実習がスタートした。講師は、名古屋掖済会病院看護部 石黒副看護部長、丹羽看護師長、小山田主任、藤井主任、榊原看護師による、看護の分野で認定看護師の資格を有する優秀な5人の講師陣である。実習は29人を5つのグループに分け、グループ内でのコミュニケーションを図りながらプログラムが進められた。午前中は各グループ内での参加者同士の自己紹介から始まり、動画を視聴しながらの接遇・コミュニケーション（ビジネスマナー、お辞儀や発音・滑舌の実践、敬語の実力チェック、医療現場での言葉遣いなど）の講義と実習、感染予防策の講義が行われた。1時間の昼食休憩を挟み、午後は患者移送・移動の技術を動画で視聴、その後、車いす・ストレッチャーを使用して講師の指導を受け、グループ内での議論も交わしながら楽しく身に付く実習



を行った。最後の実習は、午前中に講義を受けた感染予防策の実習で、有効な手洗いの方法と個人防護具の脱着について学んだ。その後、受講した皆さまに今回の修了証をお渡しして実習は終了となった。

愛知県診療放射線技師会では、平成30年度も医療基礎コース「看護学」実習を継続開催する計画で準備している。

最後に、本会の事業にご理解いただき、ご支援・ご協力いただいた名古屋掖済会病院看護部に感謝申し上げます。

（公益社団法人愛知県診療放射線技師会 鈴木正広）

医療基礎コース「救急医療学」実習 開催報告

平成30年2月24日（土）、名古屋掖済会病院で標記講習会が開催された。本講習会はアドバンス診療放射線技師取得に必須な科目であり、東海地区だけでなく、遠方からも多くの方が受講された。担当講師は、全員日本救急医学会認定のICLSインストラクター資格を有している診療放射線技師であるため、



現場で役立つ知識・技術・コツを実践的に学べる貴重な機会である。今後も多くの会員の皆さまに本講習会を受講していただき、管理区域の中だけでなく、あらゆる場面で救急医療に貢献できる診療放射線技師となっていきたい。本講習会を開催するに当たり、講師を担当していただいた会員の皆さま、準備と運営にご尽力いただいた愛知県診療放射線技師会の皆さま、日本診療放射線技師会関係各位へ感謝申し上げます。

（刈谷豊田総合病院 放射線技術科 糟谷明大）

「救急医療学」実習に参加して

神保 江梨香

富山県済生会富山病院 放射線技術科

参加者の声

平成30年2月24日(土)、名古屋掖済会病院で開催された「救急医療学」実習を受講致しました。受講動機はアドバンス診療放射線技師取得のためでしたが、MR専門技術者認定のためという方もおられました。過去にICLS講習や勤務先のBLS講習で、一次救命処置に関して知識はあるつもりでしたが、いざ実践となると意外に抜け落ちており、再確認する良い機会となりました。

まず「一次救命の歴史と心肺蘇生法のポイント」を聴講しました。初めて知りましたが、今日のCPRは1960年ごろに確立され、比較的歴史は浅く、以前は木に宙づりにするなど何らかの形でショックを与えようとしていたそうです。逆に命を落とすのでゾッとしました。

実習ではいくつかの過程を3つほどに分けて、一つ一つ確認しながら丁寧に説明していただきました。忘れがちなのが

「周囲の安全」と「応援を呼ぶ」ことで、救出者まで傷病して二次災害を引き起こさないためにも、焦らずに落ち着いて対応できるよう日頃からの訓練が重要だと痛感しました。また胸骨圧迫の際には、視線を自分がいる反対側の疾病者の脇にすると、前傾姿勢になり圧迫しやすいなど、他にもたくさんのコツを教えていただき大変参考になりました。この実習の特徴は、インストラクターが全員診療放射線技師という点であり、より現場目線で説明してくださるのでとても実践に即した内容だと思います。

筆記と実技試験後の講義「日本の救急医療体制と診療放射線技師の役割」では、急変対応とは「急変」として発見する前の変化から始まっており、意識状態や皮膚・粘膜変化などの急変兆候をいち早く「気付き」対応することで、生命の危機を回避することができます。今後、診療放射線技師もBLSを基礎技術として身に付け、変化に「気付く」ことが重要であると強く感じました。

第27回ナイトセミナー 開催される

平成30年2月26日(月)午後7時半より、本会事務所講義室で第27回ナイトセミナーが開催された。受講者は29人であった。講師には、奈良県立医科大学附属病院の安藤英次先生をお迎えし、「読影につながる膝関節の加齢変性とX線解剖」のご講演を頂いた。時間前より安藤先生に質問する受講生もおり、テーマに対する関心の高さがうかがえた。全体を通してとても充実した内容であり、セミナー終了後のアンケートでも大変好評であった。



第27回ナイトセミナーに参加して

石本 陽平

昭和大学江東豊洲病院 放射線室

参加者の声

このたび、第27回ナイトセミナーに参加させていただきました。今回は、『図解 下肢撮影法』の著者でいらっしゃる安藤英次先生が「読影につながる膝関節の加齢変性とX線解剖」についてご講演されるということで、とても楽しみにしていました。

講義内容は、膝関節撮影法の基本的なことから荷重位撮影の意味、人工膝関節撮影の観察ポイントの解説があり、幅広く学ぶことができました。膝関節撮影は、正面で膝蓋骨の正

面位、側面で内顆と外顆をそろえるということを念頭に行っていましたが、必ずしもこれが正しいとは限らず、疾患・検査目的によっては正面撮影で脛骨の前面・後面をそろえて関節面を広く描出したり、側面撮影で内顆と外顆の前面をそろえたりする(必ずしも内外顆がそろってなくてもよい)ことが重要であると学びました。われわれ診療放射線技師は、撮影した画像を見て異常所見を確認するだけでなく、医師がどのような箇所に着目しているかを知り、疾患・目的に合わせた適切な撮影法を選択することが重要であると感じました。

臨床にすぐ反映できる知識を学べるセミナーであったので、次回もぜひ参加させていただきたいと思います。

鈴鹿医療科学大学 学位授与式・入学式

平成30年3月14日(水)、中澤靖夫会長は鈴鹿医療科学大学白子キャンパス講堂で開催された平成29年度鈴鹿医療科学大学学位授与式に参列し、祝辞を述べた。式では医療科学研究科修士課程修了者6人、保健衛生学部放射線技術科学科卒業生101人に学位記が授与された。

また新年度に入り、4月3日(火)、前述の同会場で開催された平成30年度入学式に参列し、祝辞を述べた。

本年度の学部入学者数は、保健衛生学部放射線技術科学科124人を含む629人、編入学1人、大学院入学者数は医療科学研究科22人、薬学研究科2人の計24人であり、入学者総数は654人であった。



岡山県診療放射線技師会 平成29年度 第4回技師長会議報告

公益社団法人 岡山県診療放射線技師会
会長 大野 誠一郎

岡山県診療放射線技師会では、毎年、県内の技師長やその他希望者にお集まりいただき、放射線部門内の管理・教育、その他の問題点など、意見交換の場として技師長会議を開催しています。

29年度は平成30年2月25日(日)に開催し、会場である岡山大学病院マスカットキューブに51人の会員の参加がありました。

講演には、公益社団法人日本診療放射線技師会の中澤会長をお迎えして「診療放射線技師会の政策と今後」について、ご講演いただきました。

柔道整復師法の一部を改正する法律案、統一講習会の推進、指定規則の改正(案)、医学物理士の在り方、診療放射線技師法の抜本的改正(案)など、大学教育を受けた診療放射線技師が70%を超えて卒業している現在にあって、今後の技師環境に大きく影響する内容が盛りだくさんであり、活発な意見交換が行われ、会員一同大きな刺激を受けた内容でした。

「統一講習会の受講費を病院が出してくれている所はあるのか」「当院では、抜針は看護師がしている」な



講演を行う中澤会長



会場風景

どの質問に対して、日本診療放射線技師会の熊代副会長から「インジェクターを使って造影剤を注入しているのは誰ですか。医療安全上は受講が必要です」などの回答があり、県会長として私から「岡山県の担当者と直接会って、統一講習会の意義と内容について説明し、県から保健所の立ち入りなどで指導項目に追加するとの意見をもらえた」など説明を行い、立入検査で統一講習会の受講の有無を聞いてもらえることで、技師長が病院執行部に受講料の交渉をしやすいように対応している旨を説明しました。

また「学生の臨床実習の質を上げることで現場の負担が増えるので、この対処法をどうお考えですか」との質問に対して、「技師教育の進歩のためにご協力いただき、各施設で人員の確保をすべく努力したい」との中澤会長からの返答がありました。

理事や代議員は何度も内容を聞いていますが、本県の会員に直接聞いていただける機会を持たせたことは、会を運営するに当たり、大きな価値があったと感謝しています。

東日本大震災七周年追悼式 挙行される

平成30年3月11日(日)午後2時30分から、国立劇場で東日本大震災七周年追悼式が政府主催により挙行された。東日本大震災は被災地域が広範に及び、極めて多数の犠牲者を出すとともに国民生活に多大な影響を及ぼした未曾有の大災害であったことから、震災から7年を機に、国として被災者を追悼する式典を開催したものであった。当日は、秋篠宮文

仁親王同妃両殿下のご臨席の下、各界代表の参列を得て実施された。本会からは熊代正行副会長が出席した。

追悼式は、国歌斉唱、黙とうの後、内閣総理大臣式辞および追悼の辞があった。追悼の辞では、衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官および遺族代表が述べられ、その後、献花が行われ閉式した。



第8回 第34回日本診療放射線技師学術大会
山口への道 下関ってこんなところ!
実行委員 堀 健司
 (一般社団法人山口県診療放射線技師会 副会長)

INFORMATION

ふく

三方が海に開けた山口県は、豊かな水産資源に恵まれ、古くから水産県として栄えてきました。中でも下関は近代捕鯨発祥の地であり、現在は調査捕鯨の基地になっています。また「あんこう」の水揚げ量は全国一となっています。特に下関市では「ふく」「うに」「くじら」「あんこう」「いか」を水産物5大ブランドとしています。今回は、下関市の「食」を代表する水産物である「ふく」、特に「ふく刺し」についてご紹介します。

「ふく」の由来と競りについて

下関は全国のフグの水揚げ高の約8割を占めており、下関ではフグのことを「ふく」と呼ぶ場合が多くあります。フグが「不遇」につながり、フグが「福」につながることや、フグを料理する際に布に巻いて一晩寝かせた後に調理したので「布久」の当て字としたなど、諸説があります。なお下関市彦島の南風泊(はえどまり)市場に水揚げされ、この組合員が取り扱う「ふく」には「下関ふく」のシールが貼り付けられています。

下関でのフグの取引は、伝統的に「袋競り」と呼ばれる方法が用いられる場合が多いです。袋競りとは、仲介者と買い手が「ええか、ええか」の掛け声とともに、他者から見えないように服の袖から下を互いに筒状の布袋の中に入れて、仲介者の指を買い手が握ることで値段を付ける取引で、指の握り方によって仲介者に値段を伝え、どの買い手がどのような値段を付けたかは分からないようになっています。

「ふく刺し」の由来

ふく刺しはフグの身の刺し身で、関西ではフグのことを「テッポウ」と呼ぶことから、「テッポウ刺し」を略して「テッサ」とも呼ばれています。フグ肉が繊維質であるため普通の刺し身の切り方では、弾力があり過ぎてかみ切ることが難しいため、切り身が透けて見えるほどの「薄作り」で身を細く包丁で引いて刺し身にします。

ふく刺しに使われるフグ肉は、フグをメてから布をかぶせて丸1日から2日程度寝かせることで熟成されます。

ふく刺しの盛り方は、大きい円形の皿に刺し身を平たく円盤状に満遍なく盛り付ける「べた盛り」が一般的ですが、盛り方に工夫を凝らし見た目にも楽しめるようにした「鶴盛り」「菊盛り」「孔雀盛り」「牡丹盛り」などという盛り方もあります。

「ふく刺し」の食べ方とマナー

ふく刺しの王道の食べ方は、皿が透けるほどの薄さに薄造りされた刺し身を寸ねぎに巻き、もみじおろしを入れたポン酢に付けていただきます。この時のポイントとしては、刺し身を1切れではなく2~3切れを一度につかんで食べましょう。1切れずつ食べると、その薄さと淡泊な身のためにフグの味を楽しめません。

次に、マナーについて述べます。ふく刺しの場合、内側から食べ始めるのがマナーです。というのも、内側から外側に向かって円を描くようにして食べることで盛り付けられている形を崩すことなく、最後まできれいに食べることができ、ふく刺しを最後まで目でも楽しむことができるからです。

9月にはぜひご来園いただき、本場下関の絶品の味をご堪能ください。



本会の動き

人材育成委員会より

今回は、人材育成委員会について会員の皆さまにご説明したい。本会の活動において、さまざまな事業展開をしていく上で、その目的に応じて委員会や班・分科会が数多く設置されている。私が担当する人材育成委員会もその中の一つであり、下部組織は診療放射線技師マネジメント研修班と女性活躍推進班に分かれ、それぞれ事業展開されている。初めに、私自身が担当する診療放射線技師マネジメント研修班について紹介する。昨年度は2回/年の研修会を東京と大阪の2カ所で開催した。東京開催は平成29年9月30日・10月1日(参加者数40人)、大阪開催は平成30年1月27日・28日(参加者数31人)であった。

本会主催で開催してすでに7年が経過したのを契機に、合宿形式に加え2日間の日帰りコースも準備し、会員がより参加しやすい状況を整えた。講義内容も管理者(マネジャー)を対象とした合宿形式と、中間管理者(ミドルマネジャー)を対象とした日帰り形式を選択できるよう工夫をした。今後、本会が事業展開していく新生涯システムのラダー形式(クリニカル・マネジメント)のベースとなる研修会として、さらなる内容の充実を図る予定である。

次に、女性活躍推進班を紹介したい。本会役員である橋本理事を中心に全国8地域に分け、おのおの特徴ある活動を通して、女性技師の管理者育成や医療現場における環境の整備など多く

の課題を取り上げ、地域の活動を集約している。なお昨年度は、函館で開催された日本診療放射線技師学術大会シンポジウムの中で成果を発表している。本会会員の女性技師の割合は年々増加しており、本推進班の目的である女性が主体的に企画・運営することで、より多くの会員・非会員に参加の場を広げ、女性が働く職場環境の改善につなげている。各地域により活動状況は異なるが、女性技師が求められる職場環境は年々広がりつつある。

人材育成委員会は両班に共通している点が多いと考えている。医療情勢が厳しい中、医療専門職種が医療現場で求められることは多様化してきている。部門を預かる部長や技師長には、経営的管理や緻密な労務管理・リスク管理など、管理業務が拡大してきている。そのため医療環境の変化に適應できる人材を早急に育成していかなければならない。それは女性技師についても同様である。また社会現象であるワーク・ライフ・バランスへの理解と環境整備・意識改革など、従来の専門的知識と技術だけでは評価されない現実に対応できる人材を育成することは、職能団体である本会こそが取り組むべき責務である。このような活動が地方に根付くまで、本会主体で今後も推進するつもりである。最後に、会員皆さまの多くのご参加をお願いしたい。(文責:委員長 佐野幹夫)

JART 海外展開への進展に光!



ここ数年、European Congress of Radiology (ECR) への日本からの参加は増えている。ECR (オーストリア・ウィーン) は、Radiological Society of North America (RSNA: 北米・シカゴ) と並んで、海外学会では日本でも広く知られており、近年、日本からの演題エントリーも多く注目度が高い学会である。ECR 2018での参加人数は、28,474人と最高記録を更新した。また診療放射線技師の参加については、世界中の75カ国から2,177人の記録的な参加者数に達しており、診療放射線技師の参加率はECR 2017に比べて9%増加している。注目すべきは、日本からの参加者がECR 2017と比較してプラス43%と大幅に増え、日本は公式な統計で4位であった。このような環境の中、本会はECR会期中の2月28日(水)に、European Society of Radiology (ESR) 会長のBernd Hamm教授、常務理事のPeter Baierl教授と会議の場を持った。この会議では、今後のESRとJART間の実りある協力の継続であったと確

信している(4月号会誌・NNに掲載済み)。

会議時、学会側からは、日本の診療放射線技師の研究は非常にレベルが高く、大いに期待しているとのコメントや、さらに多くの参加を望むとしており、今後、本会もESRと連携し、日本の診療放射線技師に多くのメリットがあるような関係を築いていきたい。JARTは診療放射線技師法の法改正、待遇改善・各種認定講習会・基礎セミナー、厚生労働省との窓口、海外学会との交流など、多岐にわたる事業を行っているが、今回のESRとの連携は大きな前進であり、今後にぜひご期待いただきたいと思う。これまでアジア地域に力を注いできたが、今後はヨーロッパ・北米にもぜひ力を入れていきたい。なお、本会では海外学会発表援助を会員に対して行っているが、本年度はECRを対象に入れることも検討に入っており、会誌・NN・Webサイトをこまめにチェックしていただければ幸いです。

(文責:理事 富田博信)

5月・6月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

- 業務拡大に伴う統一講習会：

東京	5月19日(土)～20日(日)	岐阜	5月26日(土)～27日(日)
福岡	5月26日(土)～27日(日)	宮城	6月9日(土)～10日(日)
群馬	6月16日(土)～17日(日)	富山	6月16日(土)～17日(日)
福井	6月16日(土)～17日(日)	広島	6月16日(土)～17日(日)
熊本	6月16日(土)～17日(日)	長野	6月23日(土)～24日(日)
島根	6月23日(土)～24日(日)	山形	6月30日(土)～7月1日(日)
石川	6月30日(土)～7月1日(日)	滋賀	6月30日(土)～7月1日(日)
- 基礎技術講習(一般撮影)： 京都 6月24日(日)
- 放射線被ばく相談員フォローアップセミナー： 東京 6月10日(日)
- 放射線取扱主任者定期講習： 東京 6月15日(金)
- 画像等手術支援認定診療放射線技師認定資格試験：

宮城	6月17日(日)	東京	6月17日(日)
愛知	6月17日(日)	岡山	6月17日(日)
- 医療被ばく低減施設認定取得セミナー： 茨城 6月23日(土)
- モニタ精度管理セミナー： 東京 6月23日(土)

診療放射線技師のための フレッシューズセミナーのお知らせ

INFORMATION

プログラムは、エチケットマナー・医療安全・感染対策・気管支解剖・胸部撮影基礎(都道府県により違いあり)など、現場ですぐ役立つ知識です。会員・非会員を問いません。

日程と会場については変更される可能性がありますので、詳細は都道府県技師会までお問い合わせください。

■フレッシューズセミナー開催予定：

- | | | | |
|-----|--------------------------------------|-----|---|
| 福岡 | 5月12日(土) 会場(調整中) | 東京① | 5月13日(日) 公益社団法人東京都診療放射線技師会 研修センター |
| 秋田 | 5月19日(土) 秋田県秋田市にぎわい交流館 au 第2会議室 | 茨城 | 5月20日(日) 茨城県立医療大学 |
| 徳島 | 5月20日(日) 徳島大学病院 中央診療棟2階 放射線部カンファレンス室 | 熊本 | 5月26日(土) 熊本大学医学部附属病院 東病棟12階 多目的室 |
| 鹿児島 | 5月26日(土)～27日(日) 会場(調整中) | 栃木 | 5月27日(日) 獨協医科大学病院 教育医療棟7階 シミュレーション講義室II |
| 千葉 | 6月3日(日) 井上記念病院 8階 講堂 | 岩手 | 6月10日(日) 会場(調整中) |
| 埼玉 | 6月10日(日) 会場(調整中) | 東京② | 6月10日(日) 三鷹産業プラザ 704+705 |
| 福島 | 6月11日(月) 会場(調整中) | 北海道 | 6月16日(土) 会場(調整中) |
| 青森 | 6月16日(土) 会場(調整中) | 宮城 | 6月16日(土) 会場(調整中) |
| 奈良 | 6月17日(日) 会場(調整中) | 大阪 | 6月17日(日) エーザイ株式会社 大阪コミュニケーションオフィス |
| 京都 | 7月1日(日) 会場(調整中) | 和歌山 | 7月1日(日) 会場(調整中) |
| 大分 | 7月7日(土) 会場(調整中) | 宮崎 | 7月7日(土) 会場(調整中) |
| 山口 | 7月8日(日) 会場(調整中) | 佐賀 | 7月21日(土)～22日(日) 会場(調整中) |
| 滋賀 | 7月22日(日) 会場(調整中) | 香川 | 8月4日(土) 会場(調整中) |
| 広島 | 8月25日(土) 会場(調整中) | 神奈川 | 8月26日(日) 会場(調整中) |

JART求人広告掲載について

INFORMATION

会誌に掲載する診療放射線技師募集の求人広告を随時受け付けております。申込書ならびに募集要項につきましては、本会ホームページ(各種様式→その他)よりダウンロードしてご確認ください。

なお、掲載月の前月5日が掲載申し込みの締め切りとなっております。

事務所 案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。
ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日～1月3日)は執務致しません。